



「研修便り」は、高知市立学校教職員研修の成果・内容の共有、教育研究所から発信する情報の周知を目的として、発行していきます。

高知市教育研究所研究員 全体公開授業 十津小学校 麻生 和暉 研究員
令和6年10月25日（金）実施

研究テーマ

算数科における子どもたちの自己決定を主眼とした授業スタイル（複線型授業）の研究

「複線型授業」への挑戦



(1) 単元の見通しをもたせる(授業計画表)

(2) 学習の流れを示す

単元の見通しをもたせる(授業計画表)

単元の目標、学習の進め方を示す

自己評価の基準を明記

子どもも教師もできたかをチェックする

単元計画を示す

※ 小野領一「Neo classroom学級づくりの新时代」(2023)を参考に作成

学び方

- 01 今日の問題
- 02 課題
- 03 めあて
- 04 思考タイム
- 05 まとめ
- 06 テスト・自学タイム
- 07 チェックタイム



(3) 「自己選択」や「自己決定」の場をつくる

① 「思考タイム」課題解決方法の選択

② 「他者参照」共有方法の選択

③ 「自学タイム」適応問題の選択



(4) 学習を振り返る(授業計画表)

(5) 学習進捗の確認(座席表スプレッドシート)

学習動画の二次元コード

適応問題の二次元コード

一時間の学びを子どもが記述し、教師が評価する

座席表スプレッドシート

考え中

ヘルプ

考え中

問題作ったよ!

問題作ったよ!

〇〇さんがヘルプだ!何に困っているのかな?

※たになか先生「ICTで教育を革新!自由進度学習のためのGoogleスプレッドシート」
URL: <https://youtu.be/tRht7judlVW?si=-jSSxxHqBie3ShhL> を参考に作成

「複線型授業」への挑戦によって

<子ども>
各々の課題に向かってどのように学ぶか、学び方を獲得し、関わり合いながら学ぶことができるようになってきた。

<担任>
子どもたちが学び方を獲得したことで、支援やファシリテーションに徹することができた。

【参観者の感想】

麻生研究員が、日頃から行っている授業の流れが子どもたちにも定着しており、個に応じた学び方の選択を自然と行っている様子が大変印象的でした。持ち帰り課題はもちろんのこと、普段から用いられている子どもたちの今の状況がすぐに分かるスプレッドシート、定着度をはかる確認テスト等、様々な準備がされているからこそ、子どもたちが自分のペースで自分に合った形式で学んでいるのだと感じました。

第2回 情報教育担当者研修会

令和6年10月15日(火)実施

【小学校】「教科でのICT活用例」講師：浜松市立大瀬小学校教諭 菊地 寛 氏



教師主導の授業から子ども主体の授業へ転換

そのために

ICTの活用が
必要不可欠

授業観のアップデートが必要

できそうなところから
子どもに委ねる

★ 何を使って(ロイロノート・スクールなど)何ができるのか(思考, 共有, 協働, 習熟)をイメージする。

※ タブレット端末の活用場面は教科書にも掲載されている。

(例) 【3年 社会科】

見学や町探検で学んだことをシンキングツールを活用して協働的に整理する。

【2年 道徳】

デジタル教材「心の数直線」(熊本市教育センター作成)を活用して、自分の今の気持ちを表し、話し合う。

★ 子どもの視点で「個別最適な学び」を具体的に考える。

(例) 【体育科】「マット運動」

- ① NHK for Schoolを視聴して技のポイントを見付ける。(課題型持ち帰りにしてもよい)
- ② グループで教え合いながら、技を磨く。
- ③ できる技で演技を構成し、グループ演技を発表する。

※ 個人演技をゴールとするのではなく、グループ演技をゴールにするなど授業構成を見直す。

子ども主体の
学習活動にする

【情報教育担当者の三つの役割】

- ① 校内への啓発 Google Cloudを活用して、校務から“楽, 便利”だということが実感できるように仕組む。
- ② 校内研修 「他者参照の場面を設定します」など〇〇宣言をさせ、実践について研修で振り返る。
- ③ トラブル対応 一人では対応せずに、担任を巻き込む。マニュアル等を用意して担任の作業を手伝う。

【中学校】「情報活用能力育成を目指した授業例」

講師：学校法人桐蔭学園中等教育学校 専任教諭 郡司 直孝 氏



模擬授業

中学校第2学年社会科・地理的分野 「C日本の様々な地域 (2)日本の地域的特色と地域区分」

【この単元の毎時間の流れ】(模擬授業では◎を実施)

- ・ 授業者が説明(約20分) ⇒ 説明文作成
- ◎ 説明文にふさわしい資料(図表や画像など)を選択
- ◎ 資料の適切さについてグループで議論
- ◎ 全体で発表・共有, 相互評価

「ふさわしい資料」の条件を設定

- ・ 説明文の【具体例】, 【根拠】, 【補足】になっているかどうか



← 模擬授業に関する資料はこちら

研修用ポータルサイト



質問フォームでいつでも質問可能

【1人1台端末(GIGAタブレット)の活用】

- ① ふさわしい資料のWebページのURLをコピー
- ② Googleフォームにて、グループ、氏名とWebページのURLを入力(何度も入力可能)
- ③ 入力内容が共有されたGoogleスプレッドシートで即時共有, 閲覧
- ④ グループで議論し、ふさわしい資料を選択
- ⑤ Googleスライドに選択したものを貼付け
- ⑥ 全体へ発表(聴き手はフォームで評価を実施)

引用時、必ず出典を記載させる

[Webサイト名, Webページ名, URL, 最終アクセス日, PDFの場合にはページ数]

「必要な情報を選択する力」や「相手を説得する力」など、プレゼン時にも必要な力が身に付く

よくある七つの相談

- ・ 情報活用能力の育成には、何を意識をしたらいいの?
- ・ 先生の研修はどうしたらいいの?
- ・ 1人1台持っている「悪いこと」しませんか?
- ・ 「ネガティブ先生」がいるんですが...
- ・ ICTを活用した授業事例を知りたい
- ・ ICTを活用した「すごい」授業って?
- ・ 紛失や破損をなくしたいんですが...

回答, ヒントとなる資料はこちら↓



【卒業後、さらにその次のステージまで見据えて】

- ・ 1人1台端末は、学習にだけ活用するものではなく、生活をよりよくするものとして活用する。
- ・ 「情報教育」=「ICT」ではない。
- ・ 高等学校情報化の教科書や共通テストの問題を一度確認してみる。問題量(文章と情報)から、紙ベースでの学習で対応できるか。デジタルが有効な面もあるのでは?
- ・ 中学校のうちから多くの情報に触れ、答えを導くなど、教科だけの力(学力)だけでは十分ではないかもしれない。

感想) GIGAタブレットを活用した模擬授業は、大変参考になった。スプレッドシートとフォームとの連携など知らなかった技術なども知れた。フォームを利用すれば、授業や職員会などにも利用できると考えた。「そんな使い方もできるのか!」と目から鱗のものがたくさんあった。教職員にも広げて、子ども達への還元を目指したい。

ご意見・ご感想を高知市教育研究所 教職員研修班までお寄せください。